

# 秋レタスにおける診断施肥技術の確立と普及

県西農林事務所 坂東地域農業改良普及センター

管内では長年のレタス栽培により肥料成分が蓄積しているほ場が多く、特に秋レタスは近年の高温や豪雨によって土壤中の窒素の影響を受けやすくなっており、レタスが大きくなりすぎる・形がくずれるなどの問題が生じています。普及センターでは生産者・JA・園芸研究所と連携して、土壤中の残存窒素を考慮した施肥技術（診断施肥）を確立し、秋レタスの高品質安定生産に取り組みました。

## 生産現場との連携による技術開発

岩井農協園芸部会青年部とともに3年間の実証試験を行い、現地に適した診断施肥技術を3つの作型で確立しました。（作型（収穫時期による）：10月・11月上旬・11月中下旬）



青年部員と収穫調査（左） 試験結果の検討会（右）

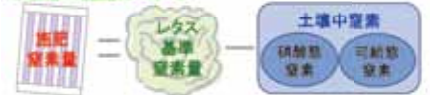
## 秋レタス施肥マニュアル

岩井農協園芸部会青年部・アグライフ/坂東地域農業改良普及センター

### 秋レタスの基準窒素量

10月どり 基準窒素量 10kg/10a	11月上旬どり 基準窒素量 15kg/10a	11月中下旬どり 基準窒素量 15kg/10a
----------------------------	------------------------------	-------------------------------

### 理想の施肥について



←表側

↓裏側

土壌中窒素 硝素態窒素 可給態窒素 (kg/10a)	使用量 (袋)	土壌中窒素 硝素態窒素 可給態窒素 (kg/10a)	使用量 (袋)
0	5	0	7.5
2	4	3	6
4	3	6	4.5
6	2	9	3
8	1	12	1.5
10以上	0	15以上	0

技術や施肥量をわかりやすく表示（施肥マニュアル）

## 見やすい「施肥マニュアル」

試験結果をとりまとめ「秋レタス施肥マニュアル」を作成しました。表側に「診断施肥法の考え方」、裏側には診断の結果、使用する肥料の袋数が一目でわかる「早見表」を載せています。

マニュアルは岩井農協園芸部員全戸に配布し、適正施肥を推進しました。

## 技術の定着・他地域への波及

部会や任意組合の生産者に対する講習会等において「施肥マニュアル」を活用した技術の広報活動、実証ほの設置による技術の展示等を行った結果、技術を導入する農家が徐々に増加しています（残存窒素分析点数226点）。

また、近隣の境町でも地域に適した施肥技術の確立に取り組み始めました。



境町への技術波及  
(JA 茨城むつみ境地区野菜生産部会青年部)